

# 2022年3月期 決算説明会

2022年5月11日  
富士フイルム ホールディングス株式会社

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

2022年3月期

1

**決算ハイライト及びVISION2023進捗状況**

富士フイルムホールディングス株式会社 代表取締役社長・CEO **後藤禎一**

2

**連結業績及び事業概況**

富士フイルムホールディングス株式会社 取締役・CFO **樋口昌之**

2023年3月期

3

**通期連結業績予想**

富士フイルムホールディングス株式会社 取締役・CFO **樋口昌之**

2022年3月期

# 決算ハイライト及びVISION2023進捗状況

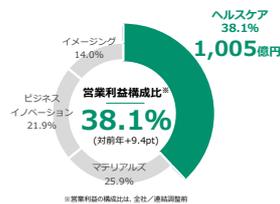
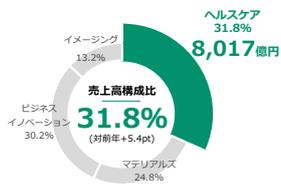
# 2022年3月期 決算ハイライト

FUJIFILM

## 2022年3月期(2021年度) 連結業績

- ▶ 新型コロナ影響からの着実な回復と、ヘルスケア及び電子材料の伸長により、業績予想をクリアし、過去最高益となる「営業利益」及び「当社株主帰属当期純利益」を達成。
- ▶ ヘルスケアが売上高・営業利益ともに最大のセグメントに成長。

(2/9公表値)



4

2022年3月期の売上高は2兆5,258億円、営業利益は過去最高益の2,297億円となり、前年度の新型コロナウイルス感染症流行拡大影響からの着実な回復に加えて、ヘルスケア・電子材料の伸長により、大幅な増収・増益を達成しました。

昨年の社長就任時に、2027年3月期にヘルスケアセグメントで売上高1兆円を達成するという目標を掲げました。中核事業であるメディカルシステムは、日立製作所から買収した富士フィルムヘルスケアの連結効果に加えて、特に内視鏡販売が好調に推移し、収益性が大幅に向上しました。また、成長ドライバーであるバイオCDMOも順調に進捗し、ヘルスケアを売上高・営業利益ともに、最大のセグメントに成長させました。

当社株主帰属当期純利益も、営業利益の大幅な増益に加えて、持分法投資損益の改善などが寄与し、過去最高益の2,112億円となりました。

2022年3月期の年間配当金は、12期連続増配となる110円を予定します。

▶ 2022年3月期の業績目標値を全て達成。

	2022年3月期 実績	VISION2023 達成率	2022年3月期 VISION2023
✓ 売上高	<b>2兆5,258</b> 億円	達成率 <b>104</b> %	2兆4,400億円
✓ 営業利益	<b>2,297</b> 億円	達成率 <b>128</b> %	1,800億円
✓ ROE	<b>9.0</b> %	+ <b>2.8</b> pt	6.2%
✓ ROIC	<b>5.6</b> %	+ <b>1.0</b> pt	4.6%
✓ CCC	<b>122</b> 日	+ <b>2</b> 日	124日
✓ 営業CF	<b>3,239</b> 億円	遂行率 <b>32</b> %	1兆円/3年間

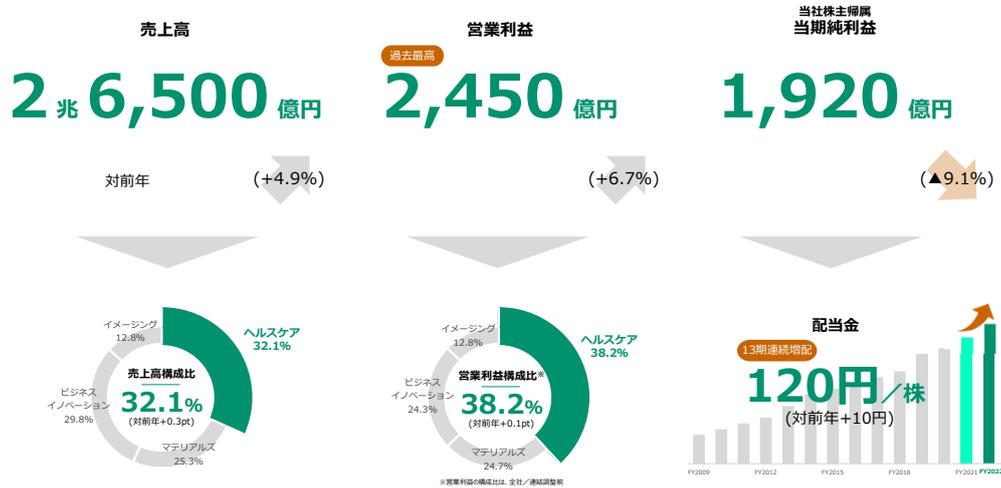
5

2022年3月期は、中期経営計画VISION2023がスタートした初年度にあたる年でしたが、ご覧のとおり、VISION2023の業績目標値を全て達成することができました。VISION2023の成長戦略を着実に実行するとともに、新型コロナウイルス流行拡大への対応、さらには新たに生じた需要を取り込むことによって、当初の初年度計画を大きく上まわり、VISION2023を順調にスタートすることができたと考えています。

# 2023年3月期 連結業績予想ハイライト

## 2023年3月期(2022年度) 連結業績

- ▶ 全セグメント増収増益により、「営業利益」で2期連続で過去最高益を更新する。
- ▶ 年間配当は、13期連続増配となる120円/株を予想。



2023年3月期連結決算の業績予想についてですが、全セグメントを成長させ、売上高は対前年4.9%増の2兆6,500億円、営業利益は対前年6.7%増の2,450億円と、二期連続で過去最高益を更新し、VISION2023最終年度に向け成長を加速させます。

当社株主帰属当期純利益は、投資有価証券の売却益・評価益等を見込まず、1,920億円を計画します。

年間配当予想は、120円に増配します。

## 2023年3月期 ヘルスケア成長に向けた取り組み FUJIFILM

### ■ メディカルシステム事業

- ▶ AI技術ブランド「REiLI」の活用拡大
- ▶ 富士フイルムヘルスケア\*とのグループシナジー創出

\*日立製作所の画像診断関連事業を承継した会社

### ■ バイオCDMO事業

- ▶ Atara社から買収した製造拠点(米国CA州)での細胞治療薬の開発・製造受託ビジネスの推進
- ▶ FDB\*英国拠点で微生物培養向けに増設したGMP製造設備が稼働

\*FDB:FUJIFILM Diosynth Biotechnologies

### ■ ライフサイエンス事業

- ▶ 欧州の培地新工場、中国のカスタマイズサービス拠点の本格稼働による培地事業のグローバル展開
- ▶ Shenandoah社買収で拡充した細胞培養関連製品による細胞治療薬の研究開発・製造支援ビジネスの拡大

7

2023年3月期の取り組みについて、最大セグメントとなったヘルスケアに絞ってご説明します。

まず、メディカルシステム事業ですが、AI技術ブランド「REiLI」を中心に据えてAI技術を活用した製品の開発を加速させます。一例として、内視鏡分野においてAI技術の一つであるディープラーニングを活用した内視鏡診断支援システム「CAD EYE」が市場で高く評価され、内視鏡システムの販売が大幅に伸びており、こうした最新のAI技術を搭載したITシステムとCT、MRI、X線診断装置、超音波、内視鏡などの幅広いモダリティを組み合わせた「AI・ITソリューションビジネス」を拡大していきます。

また、富士フイルムヘルスケアが、昨年4月に当社グループに入って以降、製品ラインアップの拡大でパッケージ・一括販売などのクロスセル営業が推進され、幅広いエリアや顧客へのアクセスが大幅に向上するなど、販売シナジーを創出してきています。開発シナジーの面においても、先月、AI技術を活用した画像処理機能・検査効率向上技術を搭載するマルチスライスCTシステム「SCENARIO View Plus」を発売しましたが、今後も、両社の医療AI・IT技術を融合して開発した製品を市場に投入し、製品ラインアップの拡充を図っていきます。

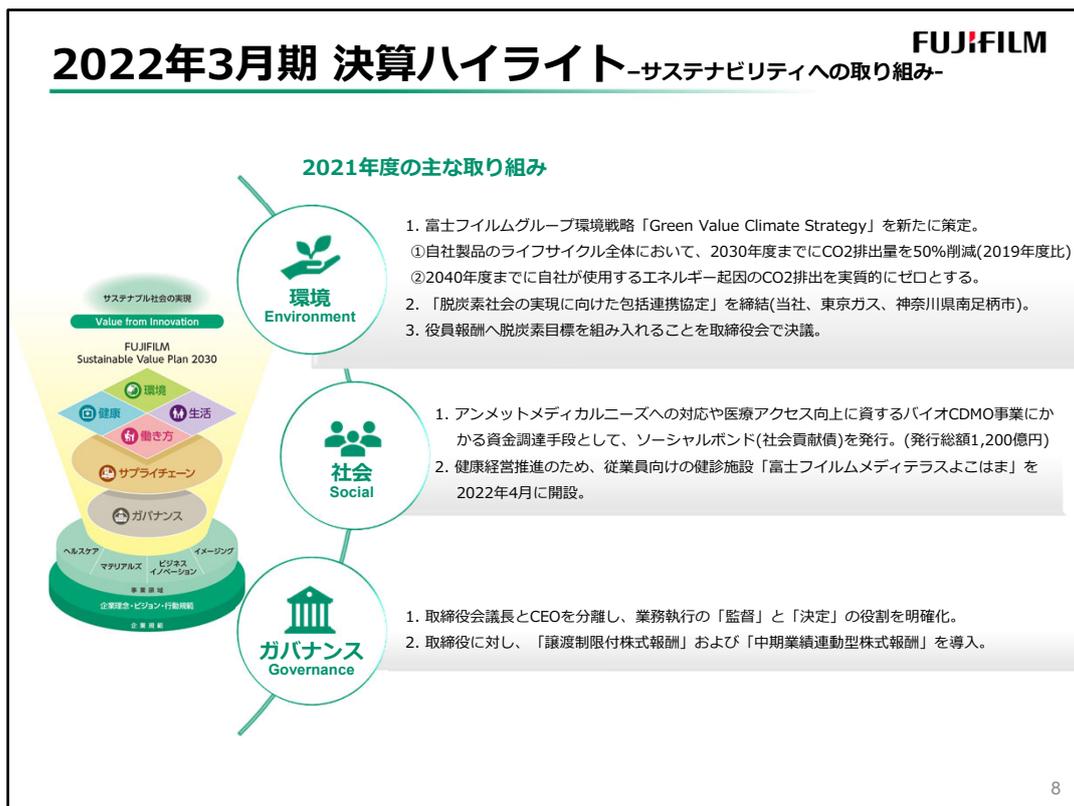
次にバイオCDMO事業については、4月に米国バイオベンチャーAtara社の細胞治療薬製造拠点の買収手続きが完了し、FUJIFILM Diosynth Biotechnologiesのカリフォルニア拠点として始動させました。今後、細胞治療薬の受託ビジネスを本格的に展開し、バイオ医薬品の開発・製造受託事業をさらに拡大していきます。

また、英国拠点で建設していた微生物培養によるバイオ医薬品原薬の製造設備が、2023年3月期の第4四半期中に完成し稼働開始する予定です。当社は2025年3月期にバイオCDMO事業で2,000億円の売上を目指す中、米国・欧州各拠点での大型設備投資と人員強化策を推進していきます。

ライフサイエンス事業については、昨年末に完成したオランダの培地新工場が本格的に稼働し、また、中国での培地ビジネスを拡大するため、蘇州に培地のカスタマイズサービス拠点を新設し、4月から運営を開始しています。また、3月に、米国のバイオテック企業で、サイトカインの販売・製造・研究を行っているShenandoah Biotechnologyを買収しました。これらの取り組みを通じて、培地・iPS細胞・研究用試薬にサイトカインを加えた製品ポートフォリオで顧客への総合提案力を高め、幅広いニーズに応えることで、細胞治療薬の研究開発・製造支援ビジネスを拡大していきます。

# 2022年3月期 決算ハイライト -サステナビリティへの取り組み-

FUJIFILM



8

2022年3月期におけるサステナビリティへの取り組みを紹介します。

環境については、1つ目に、脱炭素社会の実現に向け、パリ協定で定められている「1.5℃目標」に整合した、新たなCO2排出削減目標を設定しました。そして、その目標を実現するために、富士フイルムグループ環境戦略「Green Value Climate Strategy」を新たに策定しました。2つ目は、当社、東京ガス、南足柄市の三者で、脱炭素社会の実現に向けた包括連携協定を締結しました。そして3つ目は、役員報酬へ脱炭素目標を組み入れることを取締役会で決議しました。

社会については、現在積極的に投資をしているバイオCDMO事業にかかる資金調達手段として、国内最大規模となる1,200億円のソーシャルボンドを発行しました。また、健康経営推進のため、従業員向けの健診施設「富士フイルムメディテラスよこはま」を本年4月に開設しました。

最後にガバナンスについては、1つ目に、取締役会議長とCEOを分離し、業務執行の「監督」と「決定」の役割を明確化しました。2つ目に、株価変動に伴う株主の皆様との利害共有を進め、対象取締役の企業価値向上及び中長期的な業績向上への貢献意識を従来以上に高めることを目的に、取締役に対し、「譲渡制限付株式報酬」および「中期業績連動型株式報酬」を導入しました。

当社は今後も、環境、社会、ガバナンスの全ての面から、サステナブル社会の実現に向けた取り組みを積極的に行っていきます。

私からは以上です。

2022年3月期  
**連結業績及び事業概況**

## 2022年3月期 業績 (2021年4月~2022年3月)

FUJIFILM

(単位：億円)

	通期				
	2021年3月期	2022年3月期	対前年度	為替影響	為替影響 除く
売上高	21,925 100.0%	<b>25,258</b> 100.0%	3,333 +15.2%	900	2,433 +11.1%
営業利益	1,655 7.5%	<b>2,297</b> 9.1%	642 +38.8%	220	422 +25.5%
税金等調整前当期純利益	2,359 10.8%	<b>2,604</b> 10.3%	245 +10.4%	290	-45 -1.9%
当社株主帰属当期純利益	1,812 8.3%	<b>2,112</b> 8.4%	300 +16.5%	201	99 +5.4%
1株当たり当社株主帰属 当期純利益	453.28円	<b>527.33円</b>	74.05円	<その他増減要因 (対前年度)> 営業利益における 原材料価格影響：▲193億円	
ROE	8.7%	<b>9.0%</b>	+0.3%		
為替					
: 米ドル	106円	<b>113円</b>	7円安		
: ユーロ	124円	<b>131円</b>	7円安		

10

2022年3月期の業績は、

売上高は、全セグメントで増収を達成し、前年比15.2%増の2兆5,258億円、営業利益は、前年比38.8%増で過去最高益の2,297億円となり、一時費用を除く営業利益率では10%以上を達成しました。

当社株主帰属当期純利益は、過去最高の営業利益に加え、投資有価証券評価益など営業外収益や持分法投資損益が寄与し、前年比16.5%増で過去最高益の2,112億円となりました。

## セグメント別 連結売上高 | 営業利益

FUJIFILM

(単位：億円)

売上高	通期		対前年度		為替影響除く	
	2021年 3月期	2022年 3月期				
ヘルスケア	5,794	<b>8,017</b>	2,223	+38.4%	1,927	+33.3%
マテリアルズ	5,662	<b>6,272</b>	610	+10.8%	373	+6.6%
ビジネスイノベーション	7,617	<b>7,635</b>	18	+0.2%	-175	-2.3%
イメージング	2,852	<b>3,334</b>	482	+16.9%	308	+10.8%
合計	21,925	<b>25,258</b>	3,333	+15.2%	2,433	+11.1%

\*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益	通期		対前年度		為替影響除く	
	2021年 3月期	2022年 3月期				
ヘルスケア	564	<b>1,005</b>	441	+78.4%	362	+64.4%
マテリアルズ	513	<b>684</b>	171	+33.2%	105	+20.3%
ビジネスイノベーション	731	<b>579</b>	-152	-20.8%	-163	-22.2%
イメージング	156	<b>370</b>	214	2.4倍	147	+94.0%
全社/連結調整	-309	<b>-341</b>	-32	-	-29	-
合計	1,655	<b>2,297</b>	642	+38.8%	422	+25.5%

11

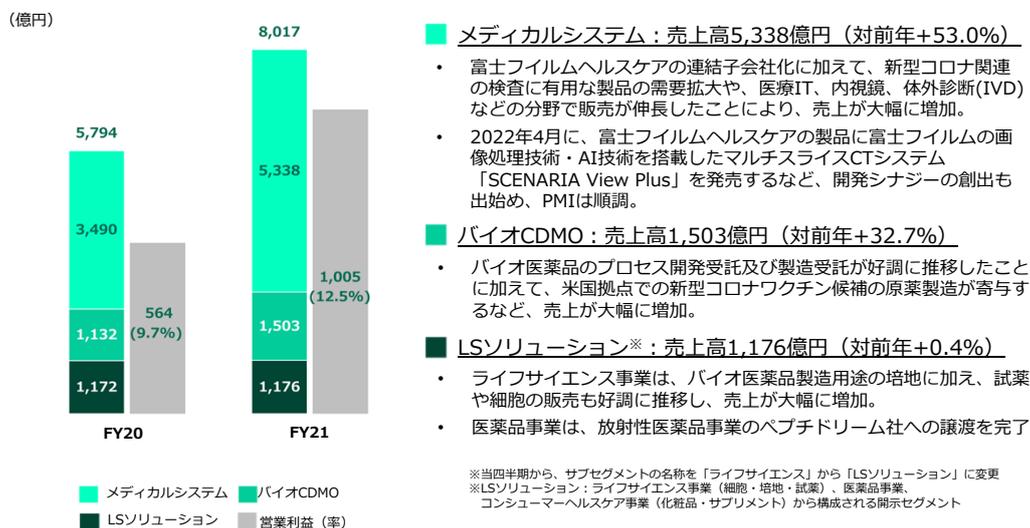
続いて、セグメント別の業績について、売上・利益はご覧の通りです。

ヘルスケアが大幅な増収増益により、売上・営業利益ともに最大セグメントになりました。

## セグメント別概況：ヘルスケア

FUJIFILM

全サブセグメントでのオーガニックグロースに加えて、メディカルシステム事業における富士フィルムヘルスケアの連結子会社化も寄与し、売上高対前年+38.4%、営業利益対前年+78.4%となる大幅な増収・増益を達成。



12

ヘルスケアの業績の概要を説明します。

全サブセグメントでのオーガニックグロースに加えて、メディカルシステム事業における富士フィルムヘルスケアの連結子会社化も寄与し、売上高は、前年比38.4%増の8,017億円、営業利益は、前年比78.4%増の1,005億円となりました。

メディカルシステムは、富士フィルムヘルスケアの連結子会社化に加えて、新型コロナウイルス感染症関連の検査に有用な製品の需要拡大や、医療IT、内視鏡、体外診断(IVD)などの分野で販売が伸長したことにより、売上が大幅に増加しました。また、本年4月に、富士フィルムヘルスケアの製品に富士フィルムの画像処理技術・AI技術を搭載したマルチスライスCTシステム「SCENARIA View Plus」を発売するなど、開発シナジーの創出も始まっており、PMIを順調に進めています。

バイオCDMOは、バイオ医薬品のプロセス開発受託及び製造受託が好調に推移したことに加えて、米国拠点での新型コロナワクチン候補の原薬製造が寄与するなど、売上が大幅に増加しました。

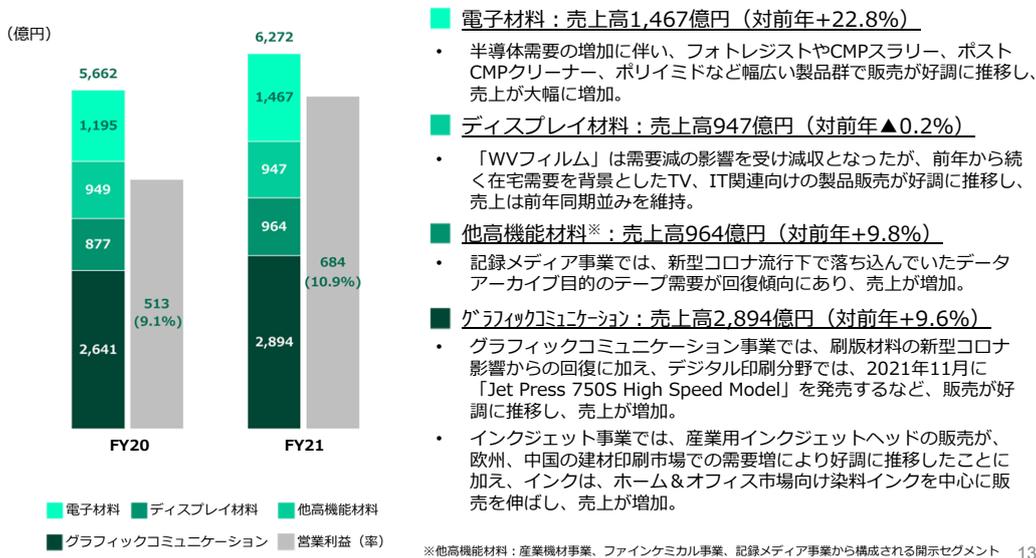
LSソリューションのうち、ライフサイエンス事業は、米国子会社「FUJIFILM Irvine Scientific」が展開するバイオ医薬品製造用途の培地に加え、富士フィルム和光純薬が展開する試薬、FUJIFILM Cellular Dynamicsが展開する細胞の販売が好調に推移し、売上が増加しました。

医薬品事業は、放射性医薬品事業のペプチドリーム社への譲渡が3月28日に完了しました。医薬品事業は今後、現在取り組んでいる新薬開発を推し進めるとともに、ドラッグ・デリバリー・システム技術を用いた脂質ナノ粒子製剤の製造設備・インフラを活用した、次世代医薬品の核酸医薬品やmRNAワクチンのプロセス開発・製造受託に注力していきます。

## セグメント別概況：マテリアルズ

FUJIFILM

新型コロナ影響からの着実な回復に加えて、旺盛な半導体需要を背景とした電子材料事業の成長が牽引し、売上高対前年+10.8%、営業利益対前年+33.2%となる大幅な増収・増益を達成。



マテリアルズの業績の概要について説明します。

新型コロナ影響からの着実な回復に加えて、旺盛な半導体需要を背景とした電子材料事業の成長が牽引し、売上高は、前年比10.8%増の6,272億円、営業利益は、前年比33.2%増の684億円となりました。

電子材料は、半導体需要の増加に伴い、フォトレジストやCMPスラリー、ポストCMPクリーナー、ポリイミドなど幅広い製品群で販売が好調に推移し、売上が増加しました。

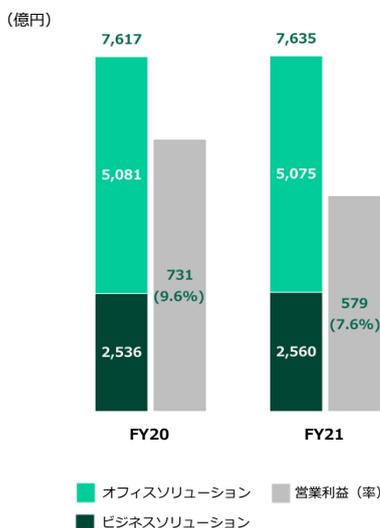
ディスプレイ材料は、「WVフィルム」は需要減の影響を受け減収となりましたが、昨年から続く在宅需要を背景としたTV、IT関連向けの製品販売が好調に推移し、売上は前年並みを維持しました。

グラフィックコミュニケーションは、刷版材料の新型コロナ影響からの回復に加え、デジタル印刷分野では、昨年11月に「Jet Press 750S High Speed Model」を発売するなど、販売が好調に推移し、売上が増加しました。

インクジェット事業では、産業用インクジェットヘッドの販売が、欧州、中国の建材印刷市場での需要増により好調に推移したことに加え、インクが、ホーム&オフィス市場向け染料インクを中心に販売を伸ばし、売上が増加しました。

## セグメント別概況：ビジネスイノベーション FUJIFILM

売上高は対前年+0.2%と前年を上回るも、海外生産拠点でのロックダウンによる稼働停止や、半導体等部品の供給逼迫による部材費高騰や物流費の上昇などの影響により、営業利益は対前年▲20.8%で着地。



### ■ オフィスソリューション：売上高5,075億円（対前年▲0.1%）

- 海外生産拠点でのロックダウンによる稼働停止や、半導体等の部品供給の逼迫および物流混乱を背景とした機器の供給・設置遅延などの影響を受けるも、ノンハードの回復や為替影響などにより前年並みの売上を維持。
- 2022年2月にデジタルカラー複合機及びプリンター「Apeos」の製品ラインアップを拡充。また、富士フィルムの海外拠点や有望な代理店の活用を進め、第3四半期より新たな市場にてオフィス向け製品の販売を開始。今後も新規のOEM供給も含め、グローバル展開を拡大する。

### ■ ビジネスソリューション：売上高2,560億円（対前年+1.0%）

- 国内での自治体向けビジネスの増加や、海外を中心としたBPO※事業の好調などにより、売上が増加。
- 2022年1月1日に、HOYAデジタルソリューションズ株式会社の買収を完了し、「富士フィルムデジタルソリューションズ株式会社」として新たに事業活動を開始。新会社が提供する基幹システムの販売及び導入支援を含め、今後お客様のDXに資するソリューション・サービスメニューを順次提供し、ビジネスソリューション事業の更なる成長を加速させる。

※ビジネスプロセスアウトソーシング

14

ビジネスイノベーションの業績の概要について説明します。

売上高は、前年比0.2%増の7,635億円となりました。

営業利益は、海外生産拠点でのロックダウンによる稼働停止、部材費高騰や物流費の上昇などの影響により、前年比20.8%減の579億円となりました。

オフィスソリューション事業では、海外生産拠点での稼働停止や、半導体等の部品供給の逼迫および物流混乱を背景とした機器の供給・設置遅延などの影響を受けましたが、ノンハードの回復や為替影響などにより前年並みの売上を維持しました。

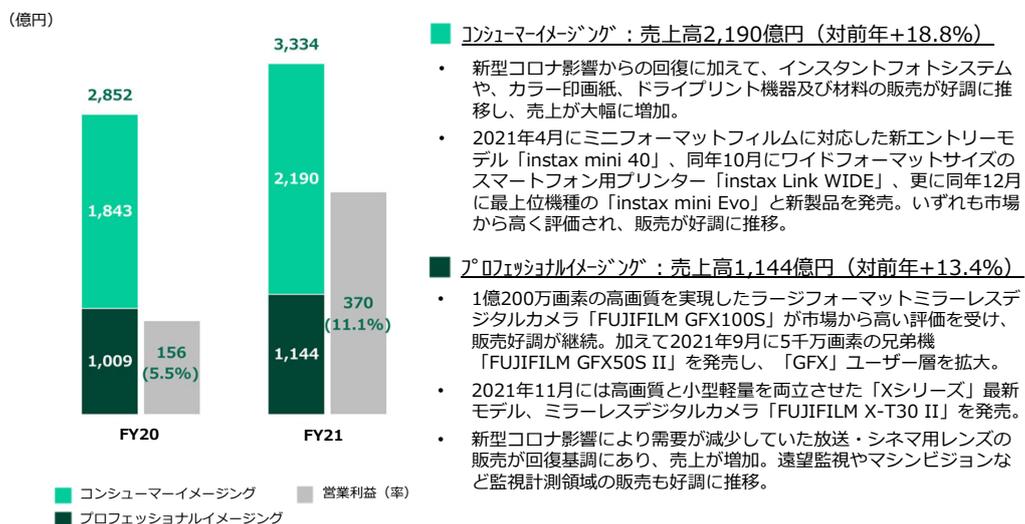
本年2月にデジタルカラー複合機及びプリンター「Apeos」の製品ラインアップを拡充。また、富士フィルムの海外拠点や有望な代理店の活用を進め、第3四半期より新たな市場にてオフィス向け製品の販売を開始しました。今後も新規のOEM供給も含め、グローバル展開を拡大します。

ビジネスソリューション事業は、国内で自治体向けビジネスが増加したことや、海外を中心にBPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）が好調に推移し、前年を上回る売上となりました。また、本年1月1日に、HOYAデジタルソリューションズ株式会社の買収を完了し、「富士フィルムデジタルソリューションズ株式会社」として新たに事業活動を開始しました。新会社が提供する基幹システムの販売及び導入支援を含め、今後お客様のDXに資するソリューション・サービスメニューを順次提供し、ビジネスソリューション事業の更なる成長を加速させていきます。

## セグメント別概況：イメージング

FUJIFILM

カラー印画紙や放送・シネマ用レンズ等の新型コロナ影響からの着実な回復に加えて、インスタントフォトシステムやデジタルカメラでの新製品投入により、販売が好調に推移し、売上高対前年+16.9%、営業利益対前年2.4倍となる大幅な増収・増益を達成。



15

イメージングの業績の概要について説明します。

カラー印画紙や放送・シネマ用レンズ等の新型コロナ影響からの着実な回復に加えて、インスタントフォトシステムやデジタルカメラでの新製品投入により、販売が好調に推移し、売上高は、前年比16.9%増の3,334億円、営業利益は、前年比2.4倍の370億円となりました。

消費者イメージング分野では、インスタントフォトシステムや、カラー印画紙、ドライプリント機器及び材料の販売が好調に推移し、売上が増加しました。インスタントフォトシステムは、昨年4月に、ミニフォーマットフィルムに対応した新エントリーモデル「instax mini 40」、10月にワイドフォーマットサイズのスマートフォン用プリンター「instax Link WIDE」、更に12月に最上位機種種の「instax mini Evo」と、新製品を発売しました。いずれも市場から高く評価され、販売が好調に推移しました。

プロフェッショナルイメージング分野では、1億200万画素の高画質を実現したラージフォーマットミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX100S」や、昨年9月に発売した5千万画素の兄弟機「FUJIFILM GFX50S II」、更に、11月に発売した「Xシリーズ」最新モデルのミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM X-T30 II」がいずれも好評で、デジタルカメラの販売好調が継続しました。また、新型コロナ影響により需要が減少していた放送・シネマ用レンズの販売が回復基調にあり、遠望監視やマシンビジョンなど監視計測領域でのレンズ販売も堅調で、前年を大きく上回る売上となりました。

## 連結貸借対照表

FUJIFILM

(単位：億円)

	20年 3月期末	21年 3月期末	22年 3月期末	対21年 3月期末		20年 3月期末	21年 3月期末	22年 3月期末	対21年 3月期末
現金及び現金同等物	3,961	3,948	<b>4,863</b>	915	長短社債及び借入金	6,242	5,030	<b>4,472</b>	-558
受取債権	5,584	6,057	<b>5,986</b>	-71	支払債務	2,223	2,399	<b>3,032</b>	633
棚卸資産	3,809	4,177	<b>5,045</b>	868	その他流動・固定負債	4,814	5,841	<b>6,800</b>	959
その他流動資産	1,538	892	<b>1,353</b>	461	<b>負債計</b>	<b>13,279</b>	<b>13,270</b>	<b>14,304</b>	<b>1,034</b>
<b>流動資産計</b>	<b>14,892</b>	<b>15,074</b>	<b>17,247</b>	<b>2,173</b>	株主資本計	19,533	22,046	<b>25,027</b>	2,981
有形固定資産	6,005	6,353	<b>7,368</b>	1,015	非支配持分	405	176	<b>222</b>	46
営業権	6,872	8,042	<b>8,240</b>	198	<b>純資産計</b>	<b>19,938</b>	<b>22,222</b>	<b>25,249</b>	<b>3,027</b>
その他固定資産	5,448	6,023	<b>6,698</b>	675	<b>負債・純資産合計</b>	<b>33,217</b>	<b>35,492</b>	<b>39,553</b>	<b>4,061</b>
<b>固定資産計</b>	<b>18,325</b>	<b>20,418</b>	<b>22,306</b>	<b>1,888</b>					
<b>資産合計</b>	<b>33,217</b>	<b>35,492</b>	<b>39,553</b>	<b>4,061</b>					

	20年 3月期末	21年 3月期末	22年 3月期末	対21年 3月期末
期末日 為替レート				
米ドル	109	111	<b>122</b>	11円安
ユーロ	120	130	<b>137</b>	7円安

(単位：円)

16

バランスシートについて説明します。

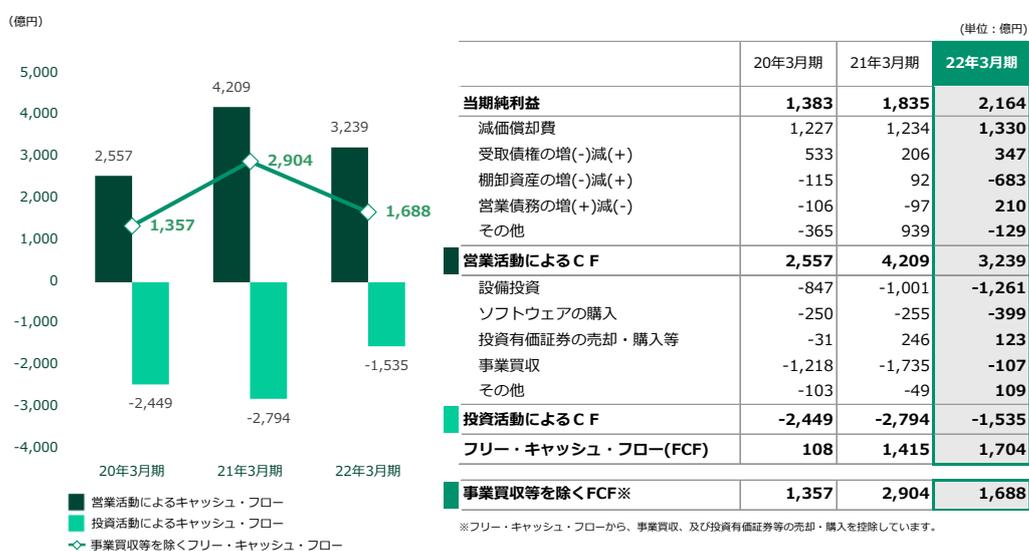
2022年3月期末時点の資産合計は、現金及び現金同等物や有形固定資産の増加などにより、2021年3月期末時点と比べ、4,061億円増の3兆9,553億円となりました。

負債は、1,034億円増の1兆4,304億円となりました。

株主資本は2,981億円増の2兆5,027億円となりました。

# 連結キャッシュ・フロー

FUJIFILM



	20年3月期	21年3月期	22年3月期
<b>当期純利益</b>	<b>1,383</b>	<b>1,835</b>	<b>2,164</b>
減価償却費	1,227	1,234	1,330
受取債権の増(-)減(+)	533	206	347
棚卸資産の増(-)減(+)	-115	92	-683
営業債務の増(+)-減(-)	-106	-97	210
その他	-365	939	-129
<b>営業活動によるCF</b>	<b>2,557</b>	<b>4,209</b>	<b>3,239</b>
設備投資	-847	-1,001	-1,261
ソフトウェアの購入	-250	-255	-399
投資有価証券の売却・購入等	-31	246	123
事業買収	-1,218	-1,735	-107
その他	-103	-49	109
<b>投資活動によるCF</b>	<b>-2,449</b>	<b>-2,794</b>	<b>-1,535</b>
<b>フリー・キャッシュ・フロー(FCF)</b>	<b>108</b>	<b>1,415</b>	<b>1,704</b>
<b>事業買収等を除くFCF※</b>	<b>1,357</b>	<b>2,904</b>	<b>1,688</b>

※フリー・キャッシュ・フローから、事業買収、及び投資有価証券等の売却・購入を控除しています。

17

キャッシュ・フローについて説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、受取債権の減少などにより、3,239億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資などにより、1,535億円の支出となりました。この結果、事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フローは、1,688億円の収入となりました。

新中期経営計画「VISION2023」で発表しました通り、売上高・営業利益の成長に加え、ROICとCCCの向上を図ることで、キャッシュ創出力を強化し、2022年3月期から2024年3月期の3年間累計で1兆円の営業キャッシュ・フローを創出します。

特に、投下資本の有効活用の観点から経営の効率性を示すROICをより重視し、創出したキャッシュは、成長投資に優先的に配分していきます。

2022年3月期決算の説明は以上です。

## 2023年3月期 連結業績予想

## 2023年3月期 通期連結業績予想

FUJIFILM

(単位：億円)

	2022年3月期	2023年3月期	対前年度
売上高	25,258 100%	<b>26,500</b> 100%	1,242 +4.9%
営業利益	2,297 9.1%	<b>2,450</b> 9.2%	153 +6.7%
税金等調整前当期純利益	2,604 10.3%	<b>2,550</b> 9.6%	-54 -2.1%
当社株主帰属当期純利益	2,112 8.4%	<b>1,920</b> 7.2%	-192 -9.1%
1株当たり当社株主帰属当期純利益 <sup>(※1)</sup>	527.33円	<b>479.05円</b>	-48.28円
ROE	9.0%	<b>7.6%</b>	-1.4%
ROIC	5.6%	<b>5.7%</b>	+0.1%
CCC	122日	<b>114日</b>	-8日
為替 <sup>(※2)</sup> : 米ドル	113円	<b>120円</b>	7円安
: ユーロ	131円	<b>132円</b>	1円安
銀価格 (/kg)	89,000円	<b>95,000円</b>	+6,000円

※1 1株当たり当社株主帰属当期純利益の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2022年3月31日現在の発行株式数(自己株式数を除く)を使用しています。

※2 2022年3月期 営業利益 為替感応度 米ドル：3億円/年、ユーロ：8億円/年

19

2023年3月期の業績予想は、

売上高は対前年4.9%増の2兆6,500億円、営業利益は対前年6.7%増で2,450億円と、二期連続で過去最高益を更新します。

中国でのロックダウンや、原材料・燃料価格高騰の影響も織り込んでいますが、メディカルシステム、電子材料などが前期に続き好調、ビジネスイノベーションやグラフィックコミュニケーションの新型コロナ影響からの回復、更に、為替の円安効果によって前年度から増収・増益の予想とします。

## セグメント別業績予想

(単位：億円)

売上高	2022年3月期	2023年3月期	対前年度	
ヘルスケア	8,017	<b>8,500</b>	483	+6.0%
マテリアルズ	6,272	<b>6,700</b>	428	+6.8%
ビジネスイノベーション	7,635	<b>7,900</b>	265	+3.5%
イメージング	3,334	<b>3,400</b>	66	+2.0%
合計	25,258	<b>26,500</b>	1,242	+4.9%

(単位：億円)

営業利益	2022年3月期	2023年3月期	対前年度	
ヘルスケア	1,005	<b>1,100</b>	95	+9.4%
マテリアルズ	684	<b>710</b>	26	+3.8%
ビジネスイノベーション	579	<b>700</b>	121	+20.9%
イメージング	370	<b>370</b>	0	+0.1%
全社/連結調整	-341	<b>-430</b>	-89	-
合計	2,297	<b>2,450</b>	153	+6.7%

20

セグメント別業績予想はご覧の通りです。

ヘルスケアは、前期に続き好調なメディカルシステムに為替影響を加え、全体で増収・増益です。

マテリアルズは、電子材料が引き続き好調であること、また、グラフィックコミュニケーションが新型コロナ影響からの回復、更に為替影響によって増収・増益です。

ビジネスイノベーションは、現下では中国等でのロックダウン影響を受けていますが、通期では、オフィスソリューションの新型コロナ影響からの回復とビジネスソリューションの売上増で、全体で増収・増益です。

イメージングは、インスタントフォトシステムとデジタルカメラの需要は引き続き旺盛も、中国のロックダウンによる影響等を見て、前年同等の売上・利益を計画します。

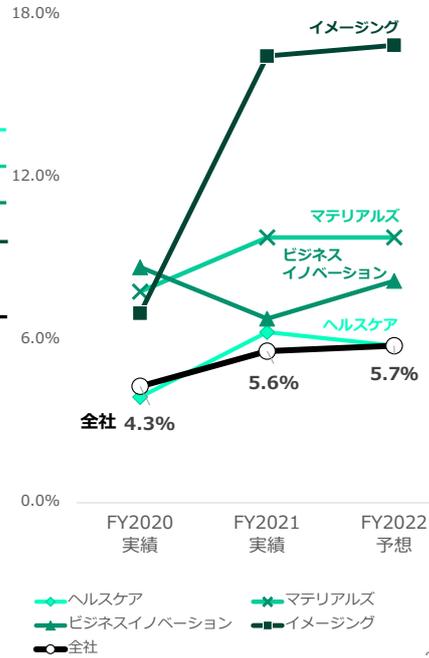
# ROIC (Return on Investment | 投下資本利益率)

	2021年 3月期 実績	2022年 3月期 実績	2023年 3月期 予想
ヘルスケア	3.9%	6.3%	5.8%
マテリアルズ	7.8%	9.8%	9.8%
ビジネスイノベーション	8.7%	6.8%	8.2%
イメージング	7.0%	16.5%	16.9%

※ セグメント別ROIC = NOPAT / (運転資本 + 固定資産) で算出

全社	4.3%	5.6%	5.7%
----	------	------	------

※ 全社ROIC = NOPAT / (有利子負債 + 株主資本) で算出



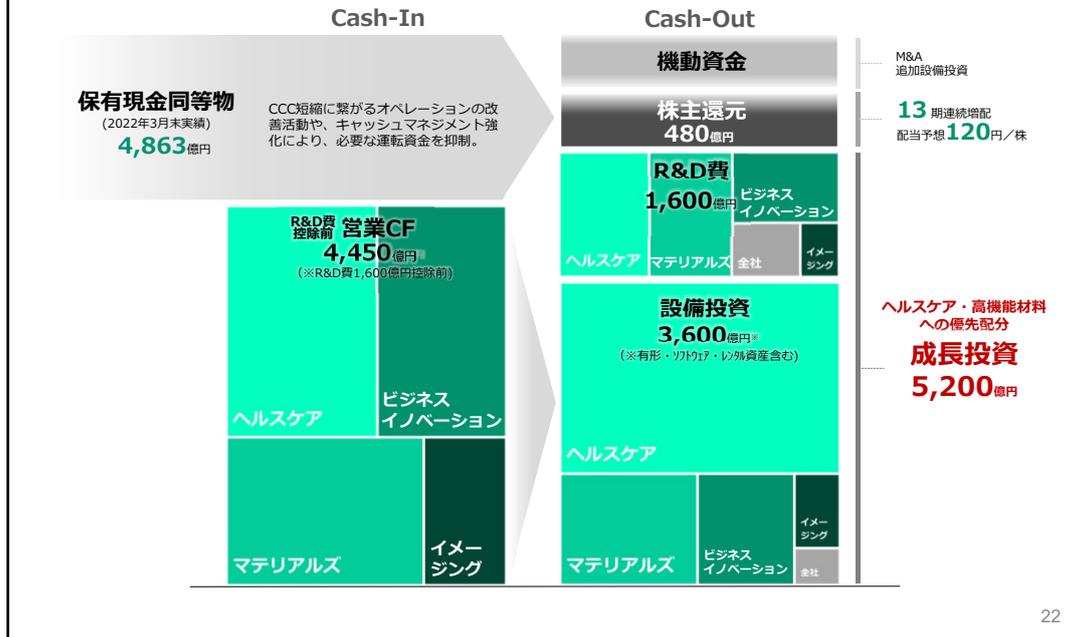
ROICの全社及びセグメント別の推移はご覧の通りです。

2022年3月期実績は、全社では、前年比+1.3ポイント増の5.6%でした。

2023年3月期予想は、大規模な設備投資によりヘルスケアセグメントのROICは減少しますが、全社では5.7%と前年からの向上を目指します。

## 2023年3月期 キャッシュアロケーション

ポートフォリオマネジメントの強化により営業キャッシュフローを最大化し、財務健全性を維持しながら、ヘルスケア・高機能材料を中心とする成長投資を継続する。



22

2023年3月期のキャッシュアロケーションをご説明いたします。

左側のボックスは営業活動によるキャッシュインを表し、研究開発費1,600億円控除前のベースで4,450億円を計画しています。

右側のボックスは資金の使途を表し、「設備投資」で3,600億円と「研究開発費」で1,600億円、合計5,200億円の成長投資をキャッシュアウトします。

セグメントのボックスの大きさは、キャッシュイン・キャッシュアウトの金額の大きさを示していますが、VISION2023で「収益基盤」事業と位置づけたビジネスイノベーションとイメージングで創出したキャッシュを、「新規/将来性・重点」事業のヘルスケアと高機能材料へ優先的に配分します。

また、株主還元として、総額約480億円の配当金を計画します。

2023年3月期は、バイオCDMO事業での大型設備投資が本格化するため、当年度中に獲得するキャッシュを上回る支出が見込まれます。その状況に対して、CCC短縮に繋がるオペレーションの改善活動やキャッシュマネジメント強化によって必要な運転資金を抑制することで、機動費として、新たなM&A、追加設備投資の資金に充当していきます。

このように、ポートフォリオマネジメントの強化により営業キャッシュフローを最大化し、財務健全性を維持しながら、ヘルスケア・高機能材料を中心とする成長投資を継続していきます。

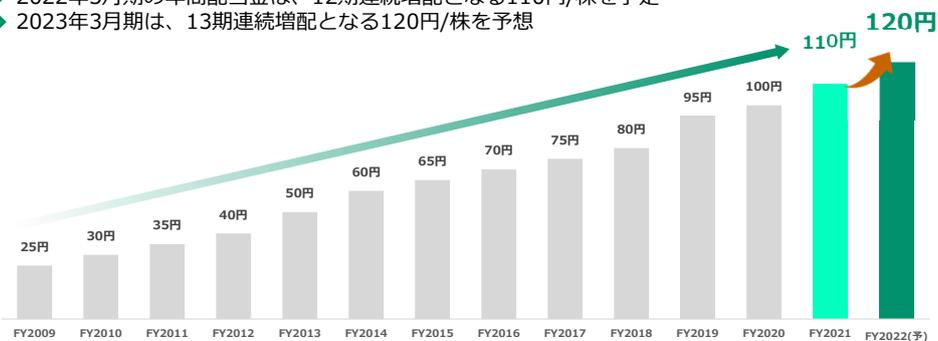
。

# 株主還元

FUJIFILM

## 配当金

- ▶ 2022年3月期の年間配当金は、12期連続増配となる110円/株を予定
- ▶ 2023年3月期は、13期連続増配となる120円/株を予想



## 自己株式取得

- ▶ キャッシュフローを勘案し、株価の推移に応じて機動的に実施

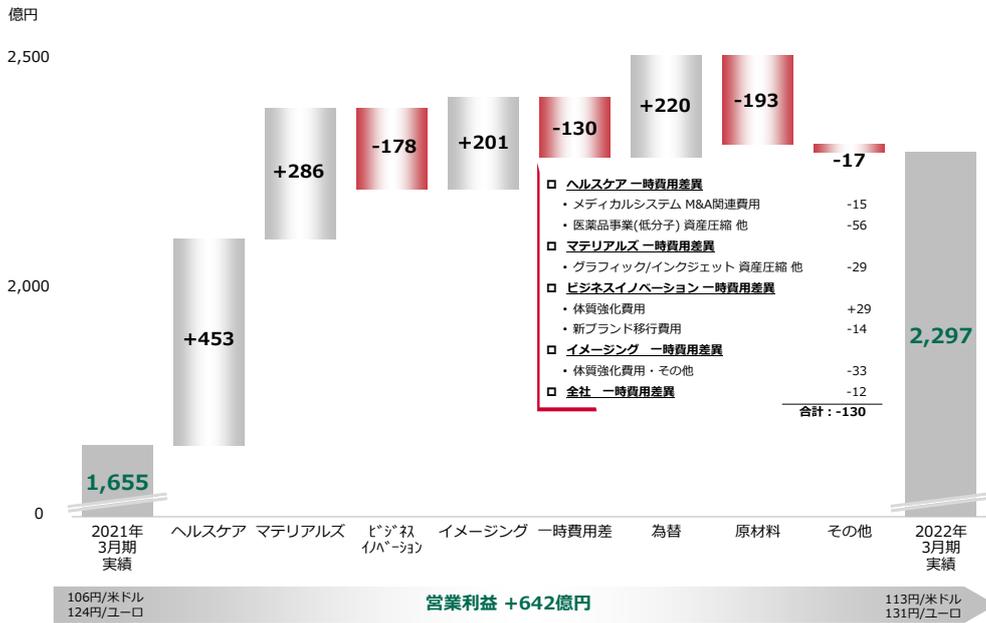
23

年間配当予想は、冒頭で後藤からお話ししました通り、13期連続増配となる120円にします。

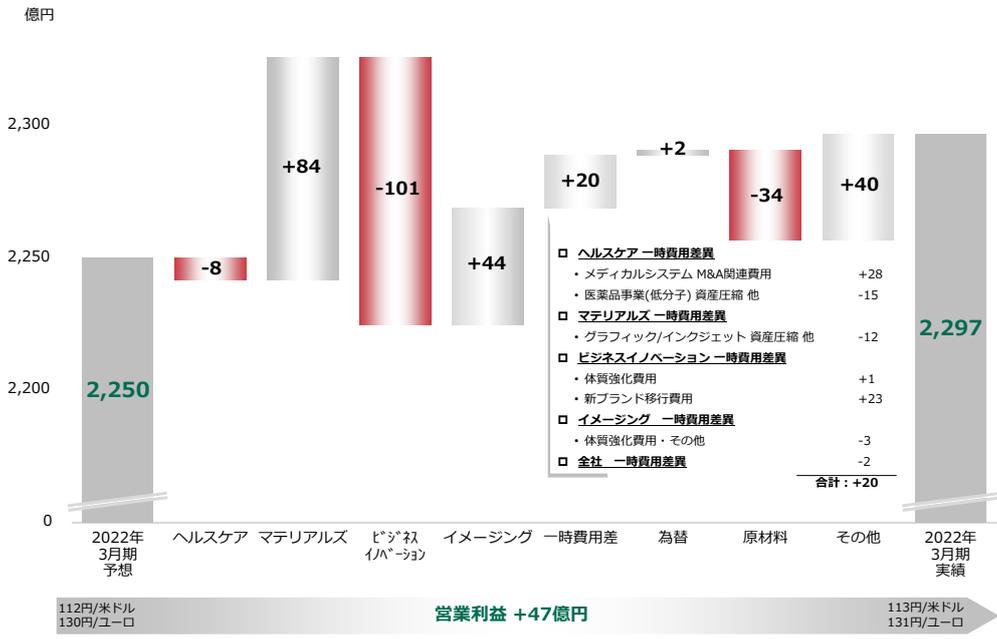
私からの説明は以上になります。

04  
参考資料 2022年3月期 決算

# 営業利益増減分析（通期実績 対前年）



# 営業利益増減分析 (通期実績 対 業績予想)



(単位：億円)

	4Q				通期			
	2021年3月期	2022年3月期	対前年度	為替影響 除く	2021年3月期	2022年3月期	対前年度	為替影響 除く
売上高	6,191 100.0%	<b>6,649</b> <b>100.0%</b>	458 +7.4%	219 +3.5%	21,925 100.0%	<b>25,258</b> <b>100.0%</b>	3,333 +15.2%	2,433 +11.1%
営業利益	450 7.3%	<b>432</b> <b>6.5%</b>	-18 -3.9%	-66 -14.5%	1,655 7.5%	<b>2,297</b> <b>9.1%</b>	642 +38.8%	422 +25.5%
税金等調整前当期純利益	611 9.9%	<b>532</b> <b>8.0%</b>	-79 -12.8%	-136 -22.2%	2,359 10.8%	<b>2,604</b> <b>10.3%</b>	245 +10.4%	-45 -1.9%
当社株主帰属当期純利益	547 8.8%	<b>541</b> <b>8.1%</b>	-6 -1.2%	-45 -8.4%	1,812 8.3%	<b>2,112</b> <b>8.4%</b>	300 +16.5%	99 +5.4%
為替								
：米ドル	106円	<b>116円</b>	10円安		106円	<b>113円</b>	7円安	
：ユーロ	128円	<b>130円</b>	2円安		124円	<b>131円</b>	7円安	

&lt;その他増減要因 (4Q/12ヶ月累計 対前年度)&gt;

営業利益における原材料価格影響：▲55億円 / ▲193億円

2022年3月期決算

## 4Q | 通期 業績

FUJIFILM

(単位：億円)

売上高	4Q						通期					
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	
ヘルスケア	1,913	<b>2,250</b>	337	+17.7%	245	+12.9%	5,794	<b>8,017</b>	2,223	+38.4%	1,927	+33.3%
マテリアルズ	1,489	<b>1,623</b>	134	+8.9%	62	+4.1%	5,662	<b>6,272</b>	610	+10.8%	373	+6.6%
ビジネスイノベーション	2,123	<b>2,044</b>	-79	-3.7%	-118	-5.6%	7,617	<b>7,635</b>	18	+0.2%	-175	-2.3%
イメージング	666	<b>732</b>	66	+9.9%	30	+4.4%	2,852	<b>3,334</b>	482	+16.9%	308	+10.8%
合計	6,191	<b>6,649</b>	458	+7.4%	219	+3.5%	21,925	<b>25,258</b>	3,333	+15.2%	2,433	+11.1%

\*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益 【営業利益率】	4Q						通期					
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	
ヘルスケア	202 [10.5%]	<b>252</b> [11.2%]	50	+25.2%	24	+12.5%	564 [9.7%]	<b>1,005</b> [12.5%]	441	+78.4%	362	+64.4%
マテリアルズ	54 [3.6%]	<b>105</b> [6.5%]	51	+95.4%	26	+48.5%	513 [9.1%]	<b>684</b> [10.9%]	171	+33.2%	105	+20.3%
ビジネスイノベーション	264 [12.4%]	<b>157</b> [7.7%]	-107	-40.4%	-94	-35.6%	731 [9.6%]	<b>579</b> [7.6%]	-152	-20.8%	-163	-22.2%
イメージング	15 [2.2%]	<b>23</b> [3.1%]	8	+55.6%	-2	-16.4%	156 [5.5%]	<b>370</b> [11.1%]	214	2.4倍	147	+94.0%
全社/連結調整	-85	<b>-105</b>	-20	-	-20	-	-309	<b>-341</b>	-32	-	-29	-
合計	450 [7.3%]	<b>432</b> [6.5%]	-18	-3.9%	-66	-14.5%	1,655 [7.5%]	<b>2,297</b> [9.1%]	642	+38.8%	422	+25.5%

28

(単位 : 億円)

売上高	4Q						通期					
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	
メディカルシステム	1,068	1,542	474	+44.5%	422	+39.7%	3,490	5,338	1,848	+53.0%	1,667	+47.8%
バイオCDMO	406	417	11	+2.5%	-21	-5.5%	1,132	1,503	371	+32.7%	282	+24.9%
LSソリューション	439	291	-148	-33.6%	-156	-35.5%	1,172	1,176	4	+0.4%	-22	-1.9%
合計	1,913	2,250	337	+17.7%	245	+12.9%	5,794	8,017	2,223	+38.4%	1,927	+33.3%

\*セグメント間取引消去後

(単位 : 億円)

営業利益 【営業利益率】	4Q						通期					
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	
ヘルスケア	202 [10.5%]	252 [11.2%]	50	+25.2%	24	+12.5%	564 [9.7%]	1,005 [12.5%]	441	+78.4%	362	+64.4%

(単位 : 億円)

売上高	4Q					通期						
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		
電子材料	309	397	88	+28.7%	60	+19.4%	1,195	1,467	272	+22.8%	191	+16.0%
ディスプレイ材料	236	206	-30	-12.8%	-30	-12.9%	949	947	-2	-0.2%	-5	-0.5%
他高機能材料	234	237	3	+0.5%	-10	-4.2%	877	964	87	+9.8%	51	+5.8%
グラフィックコミュニケーション	710	783	73	+10.3%	42	+5.9%	2,641	2,894	253	+9.6%	136	+5.1%
合計	1,489	1,623	134	+8.9%	62	+4.1%	5,662	6,272	610	+10.8%	373	+6.6%

\*セグメント間取引消去後

(単位 : 億円)

営業利益 【営業利益率】	4Q					通期						
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		
マテリアルズ	54 [3.6%]	105 [6.5%]	51	+95.4%	26	+48.5%	513 [9.1%]	684 [10.9%]	171	+33.2%	105	+20.3%

(単位: 億円)

売上高	4Q						通期					
	2021年	2022年	対前年度		為替影響除く		2021年	2022年	対前年度		為替影響除く	
	3月期	3月期					3月期	3月期				
オフィスソリューション	1,344	1,286	-58	-4.4%	-89	-6.7%	5,081	5,075	-6	-0.1%	-149	-2.9%
ビジネスソリューション	779	758	-21	-2.6%	-29	-3.7%	2,536	2,560	24	+1.0%	-26	-1.0%
合計	2,123	2,044	-79	-3.7%	-118	-5.6%	7,617	7,635	18	+0.2%	-175	-2.3%

\*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益 【営業利益率】	4Q						通期					
	2021年	2022年	対前年度		為替影響除く		2021年	2022年	対前年度		為替影響除く	
	3月期	3月期					3月期	3月期				
ビジネスイノベーション	264 [12.4%]	157 [7.7%]	-107	-40.4%	-94	-35.6%	731 [9.6%]	579 [7.6%]	-152	-20.8%	-163	-22.2%

(単位 : 億円)

売上高	4Q						通期					
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	
コンシューマーイメージング	400	460	60	+15.1%	34	+8.3%	1,843	2,190	347	+18.8%	228	+12.3%
プロフェッショナルイメージング	266	272	6	+2.2%	-4	-1.4%	1,009	1,144	135	+13.4%	80	+7.9%
合計	666	732	66	+9.9%	30	+4.4%	2,852	3,334	482	+16.9%	308	+10.8%

\*セグメント間取引消去後

(単位 : 億円)

営業利益 【営業利益率】	4Q						通期					
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	
イメージング	15 [2.2%]	23 [3.1%]	8	+55.6%	-2	-16.4%	156 [5.5%]	370 [11.1%]	214	2.4倍	147	+94.0%

## 国内・海外別連結売上高

(単位：億円)

	2021年3月期		2022年3月期		対前年度	
	構成比(%)		構成比(%)			
日本	42.3%	9,279	39.3%	9,919	640	+6.9%
米州	19.0%	4,163	20.7%	5,224	1,061	+25.5%
欧州	12.2%	2,679	13.4%	3,374	695	+25.9%
内、中国	13.4%	2,929	13.4%	3,390	461	+15.7%
アジア他	26.5%	5,804	26.6%	6,741	937	+16.2%
海外	57.7%	12,646	60.7%	15,339	2,693	+21.3%
合計	100.0%	21,925	100.0%	25,258	3,333	+15.2%

# 設備投資 | 減価償却費



(単位: 億円)

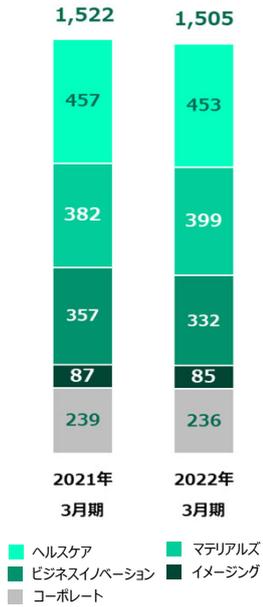
年度	4Q		通期		2023年 3月期 (予想)
	2021年 3月期	2022年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	
ヘルスケア	206	397	514	1,039	2,150
マテリアルズ	102	124	249	317	620
ビジネスイノベーション	55	32	162	121	100
イメージング	17	18	72	55	100
コーポレート	5	10	12	20	30
設備投資 (有形固定資産)	385	581	1,009	1,552	3,000
ヘルスケア	25	39	94	113	150
マテリアルズ	20	25	51	68	50
ビジネスイノベーション	91	119	207	314	300
イメージング	25	17	70	54	50
コーポレート	11	21	22	39	50
設備投資 (ソフト、レンタル資産他)	172	221	444	588	600
ヘルスケア	102	117	397	445	510
マテリアルズ	81	93	298	324	340
ビジネスイノベーション	98	101	363	390	430
イメージング	37	34	149	141	150
コーポレート	7	8	27	30	20
減価償却費	325	353	1,234	1,330	1,450

■ ヘルスケア    ■ マテリアルズ  
■ ビジネスイノベーション    ■ イメージング  
■ コーポレート

# 研究開発費 | 販売費及び一般管理費

(億円)

研究開発費  
通期



(単位：億円)

年度	4Q		通期		
	2021年 3月期	2022年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期 (予想)
ヘルスケア	157	119	457	453	
マテリアルズ	98	91	382	399	
ビジネスイノベーション	75	80	357	332	
イメージング	20	24	87	85	
コーポレート	65	72	239	236	
研究開発費	415	386	1,522	1,505	1,600
<売上高比>	6.7%	5.8%	6.9%	6.0%	6.0%
販売費及び一般管理費	1,323	1,669	5,520	6,530	
<売上高比>	21.3%	25.1%	25.3%	25.8%	

## 為替

(単位：円)

	2021年3月期					2022年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
米ドル	108	106	105	106	106	109	111	114	<b>116</b>	<b>113</b>
ユーロ	119	124	125	128	124	132	130	130	<b>130</b>	<b>131</b>

## 原材料価格 (平均)

(単位：千円/kg)

	2021年3月期					2022年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
銀	55	78	83	91	74	93	86	86	<b>88</b>	<b>89</b>

## 人員

(単位：人)

	2020.9末	2020.12末	2021.3末	2021.6末	2021.9末	2021.12末	2022.3末
連結	72,176	71,474	73,275	75,879	75,007	74,842	<b>75,474</b>

# パイプライン (2022年5月11日時点)

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階
T-705	抗新型コロナウイルス (COVID-19) 薬	経口	日本	承認申請中
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 治療薬		米国	Ph II
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	日本	Ph III
			米国	Ph II
	脳卒中後のリハビリテーション効果促進薬		日本	Ph II
T-4288	新規フルオロケトライド系抗菌薬	経口	日本	承認申請中
FF-10501	骨髄異形成症候群治療薬	経口	日本	Ph I
			米国	Ph II
FF-10502	進行・再発固形がん治療薬	注射	米国	Ph II
FF-10101	急性骨髄性白血病治療薬	経口	米国	Ph I
FF-10832	進行性固形がん治療薬 (ゲムシタビンリボソーム)	注射	米国	Ph I
FF-10850	進行性固形がん治療薬 (トボテカンリボソーム)	注射	米国	Ph I

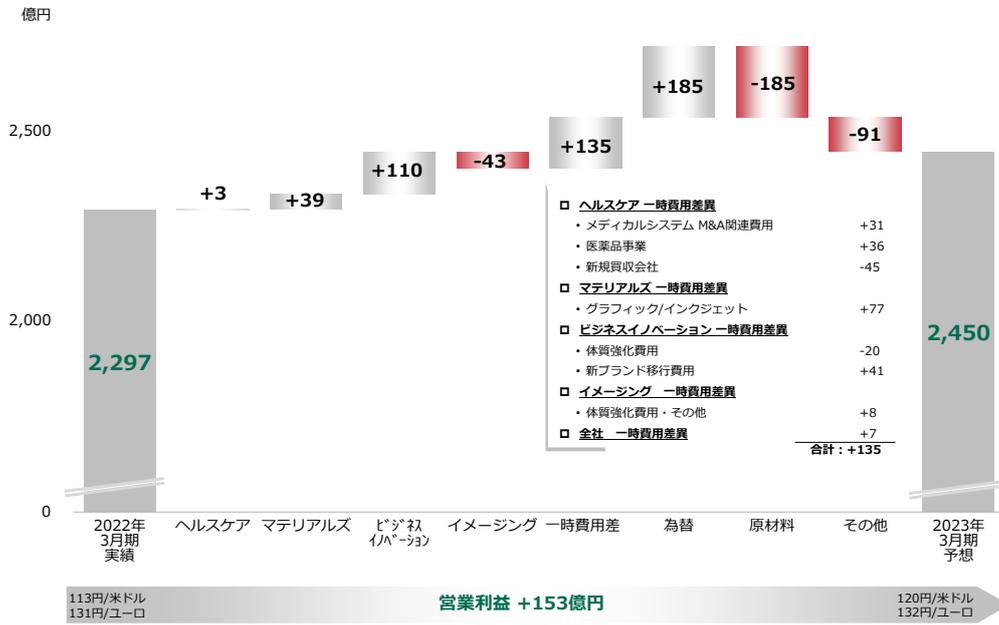
※

- ・ F-1515、F-1614 : 製造販売承認を取得済み
- ・ FF-21101 : 株式会社ヘルセウスプロテオミクスおよび富士フイルム富山化学株式会社とのライセンス契約を解約
- ・ F-1311、F-1614 : 放射性医薬品事業をヘプチドリーム株式会社へ譲渡

のため、パイプライン表より削除

参考資料 2023年3月期 通期業績予想

# 営業利益増減分析（通期業績予想 対前年）



## 設備投資 | 減価償却費

(単位：億円)

	設備投資	ソフトウェア等 <sup>※</sup>	合計	減価償却費
ヘルスケア	2,150	150	2,300	510
マテリアルズ	620	50	670	340
ビジネスイノベーション	100	300	400	430
イメージング	100	50	150	150
コーポレート	30	50	80	20
合計	3,000	600	3,600	1,450

- **富士フイルムホールディングス 株主・投資家情報**  
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors.html>
- **富士フイルムホールディングス 統合報告書2021**  
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/integrated-report.html>
- **IR資料室**  
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials.html>
- **富士フイルムってどんな会社？**  
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/individual.html>
- **グローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」**  
<https://www.fujifilm.com/jp/ja/about/brand/story/neverstop>
- **新型コロナウイルス感染症への取り組み**  
<https://brand.fujifilm.com/covid19/jp/>

# FUJIFILM

## Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

コーポレートコミュニケーション部

<https://holdings.fujifilm.com/ja>